

<指導の実際>

①教育データの活用について(○成果 ●課題)

活用したデータ資料・・・自作アンケート スクールダッシュボード 振り返りワークシート

○本時で学んだことや次時に生かしたいこと、作品を制作している際にはわからなかった悩みなどを見取り。指導に生かすことができた。データから見えてくる児童の実態をもとに、授業の構想を練ることができた。

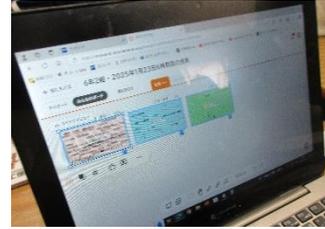
●図工の単元において、振り返りを入力する時間の確保が課題。スクールダッシュボードだけでは実態が見えてこないため、複数のデータを活用する必要がある。集積したデータをどのような観点で分析・考察していくのかについて研究の余地がある。

②指導と評価の手だての効果と課題、児童の反応



手だて③ スクールダッシュボードを活用した児童への 机間指導

スクールダッシュボードの毎日の記録を活用し、よくできたことや悩みなどを集積していき、その悩みを解決することができるような机間指導を行う。必要に応じてクラス全体に共有した。



手だて⑦ オクリンクプラスによるウェビングマ ップの共同作成

共同編集アプリでどのようなものをデザインしたらよいかクラス全員でウェビングマップを作成し、様々な意見を取り入れた。マップを見ながら、自分の作品のイメージを膨らませる児童も多くいた。どの程度活用できたかは振り返りで知ることができた。

<授業後の板書>



<協議会>

授業者の意図・反省

- データの利活用ということで、自作アンケート、授業の記録(スクールダッシュボード)、日々の振り返りから「何を描いたらよいか思い浮かばない」「何を描くか考える時間をとりたい」というデータを踏まえて授業を考えた。
- 図工の学習の過程で多くの児童が悩みを抱えている実態を受けて、毎日の記録に悩みや難しかったことを記入させ、一人ひとりに効果的な指導やアドバイスを行った。

- ・自分の時間が大切である教科の特性を意識させつつ個別最適な学習を目指した。
- ・データを取るのではなく、教師が展開しやすい授業を行ってしまっていた。データを活用することで今まで見えてこなかったことが見えて、授業改善につながった。

研究協議(○成果 ●課題)

- アンケート結果で悩みを他の人と共有できて安心感が生まれた
- 過去の自分の作品を見られるのがいい、よく参考にしていた。
- 思いつかないという実態にこたえるように友達のを見ていいことにしていた
- 教育データの活用について 授業アンケートから授業の展開を考えられている
- たくさんの参考資料からイメージを膨らませられ有効な手立てだった
- 教科によってアプリを統一させると振り返りやすい
- 毎回の授業で作るのが大変なので、つくらなくてもいい方法
- イメージしたものが彫ることができるかを今後教員がサポートする必要がある。
- 授業計画を子どもと一緒に立てられるといい

指導講評

教育課程指導課木曾先生より

- ・図工は、造形的な見方考え方を働かせ生活や社会などを豊かにする教科。
- ・作品を作るときや鑑賞する時に共通事項(形、色、イメージ)を抑えなければならない。
- ・子ども達への思いが伝わるすてきな授業、悩みにこたえる姿勢を見せて子どもに安心感を与えている。先生自身が楽しんでいる様子を見せているところもよい。子どもと一緒に作っていくこともよい。子どもと同じ活動をする
ことで、つまずき、用具、場の設定がわかる
- ・ゴール(写真館を開く)を設定することで、見通しをもてた。活動意欲も高まった。
- ・教師が作った作品を提示することで、何をすることがおわかりやすかった。場合によっては完成したものだけでなく途中の物をみせて子ども達の考えさせる余地を与える。ねらいをもったものを準備する。
- ・子ども達一人一人にどうしたいかを聞いて対応していて良かった。
- ・「自分で考える→他者と共有→自分に戻る」まずは自分一人で考える時間をとる。自分で考えたうえで他者と関わるようにしていく。困っていたけれど、みんなの作品を見て考えが広がり、自分の変容が感じられる。対話によって自分の表現を自覚できるようにする
- ・主体的に学ぶためには、自己決定ながら意欲的に取り組んでいる。高学年においては今まで習ったことを自分で選択決定して進められるようにする。3つ以外のテーマを自分で設定できてもよい。自分で決定していくことが必要。自分の思いを大事にした題材設定、活動になるように、選択決定ができるようにする。
- ・振り返りをリアルタイムに確認できてよかった。マイナスな回答をしていた児童にすぐに理由を聞いていた。悩んでいたこと、上手く出来なかったことを書いてもらうことで、次の授業のアプローチに活用できる。
- ・自分の作品の足跡がよかった。どんな思いで作っていたかまで書いていると、なおよい。

秋永先生より

- ・指導案上にデータがグラフで図式化されていることで、得意不得意がすぐ分かる。
- ・オクリンクでアイデアを共有できて楽しい時間となっていた。たくさんあるアイデアの中から、子ども達が選択しやすいようにキーワード集計を活用するとよい。
- ・毎年取るのであれば学校の中で統一できるように項目を話す必要がある。活用するデータがバラバラになっている。今年の様子と来年の様子を見比べていくことができる。